

# 行政視察報告書

令和 6 年 8 月

総務文教常任委員会

- 1 視察実施日 . . . . . P 1
- 2 参加者 . . . . . P 1
- 3 視察先及び調査事項 . . . . . P 1
- 4 視察先の概要 . . . . . P 1 ~ P 3
- 5 調査事項の概要及びまとめ . . . . . P 4
- 6 各委員報告書 . . . . . P 5 ~ P 1 1

## 1 視察実施日

令和6年8月19日(月)～令和6年8月20日(火)

## 2 参加者

委員長 藤尾 潔  
副委員長 別府みどり  
委員 長谷川幹雄、松本美和子、大久保忠義、中村龍治  
議長 高瀬俊介  
随行職員 壺井初美（議会事務局長）

## 3 視察先及び調査事項

視 察 先 山梨県富士吉田市、静岡県焼津市  
調査事項 富士吉田市：ふるさと納税の取組及びガバメントクラウド  
ファンディングについて  
焼 津 市：部活動の地域移行について

## 4 視察先の概要

### 【富士吉田市について】

山梨県の南東部、日本一の標高3,776メートルと美しさを誇る富士山の北麓に位置し、海拔750メートルの市街地を形成する高原都市。古くから、富士山信仰の町として栄え、御師文化の面影が今も残されている。

また、明治以降、織物が近代産業として脚光を浴び、この地域の主たる産業として発展し、富士吉田市はその織物産業を軸として、政治・経済・交通などあらゆる面で富士北麓の中核都市としての役割を果たしてきた。

日本のシンボルである富士山の麓に広がる富士吉田市は、市域の大部分が国立公園内にあり、土地利用の面で大きな制約を受けるが、富士山に抱かれた自然環境は、市民にとって大きな誇りであるとともに限りない恩恵を与えている。現在富士吉田市は、いつまでもこのまちで暮らしたい、このまちで子どもを育てたいと誰もが思えるまちづくりを目指し、自然との調和を保ちながら、富士山とともに歩む国際都市として発展している。

### (1) 人口と世帯数（住民基本台帳）

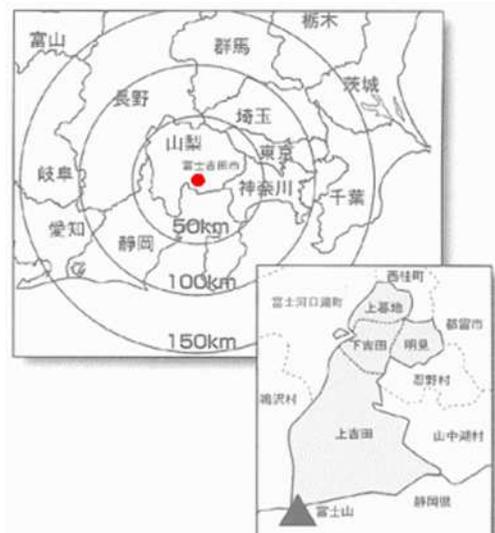
人 口 46,494 人（男：22,827 人、女：23,667 人）

世帯数 20,742 世帯

			構成比
年少人口	0～14 歳	5,010 人	10.80%
生産年齢人口	15～64 歳	26,748 人	57.50%
老年人口	65 歳以上	14,736 人	31.70%
計		46,494 人	100.00%

※令和6年6月1日現在

(2) 面積 121.74km<sup>2</sup>



※富士吉田市ホームページ、視察資料から抜粋

### 【焼津市について】

静岡県中央部に位置し、北は遠く世界遺産の富士山、東に駿河湾を臨み、西南は一面に広がる大井川流域の志太平野で、高草山・花沢山などの丘陵部を境に県都静岡市と、西には藤枝市、大井川を挟んで吉田町と島田市とに接している。

東京へ約193km、名古屋へ約173kmの地点にあり、その玄関口としてJR東海道本線に「焼津」と「西焼津」の2駅、東名高速道路に「焼津IC」と「大井川焼津藤枝スマートIC」がある。

また、富士山静岡空港からは、市域のほとんどが20km圏内に位置するなど、交通の利便性にも優れている。

市内には焼津漁港（焼津港、小川港）と大井川港の2つの港湾があり、全国有数の水産文化都市として機能している。東西の交通アクセスを生かし、江戸時代より焼津漁港ではカツオ漁が盛んであり、現在はカツオ・マグロを主とする遠洋漁業の基地となっており、2020年（令和2年）の漁業水揚げ額は全国一位である。

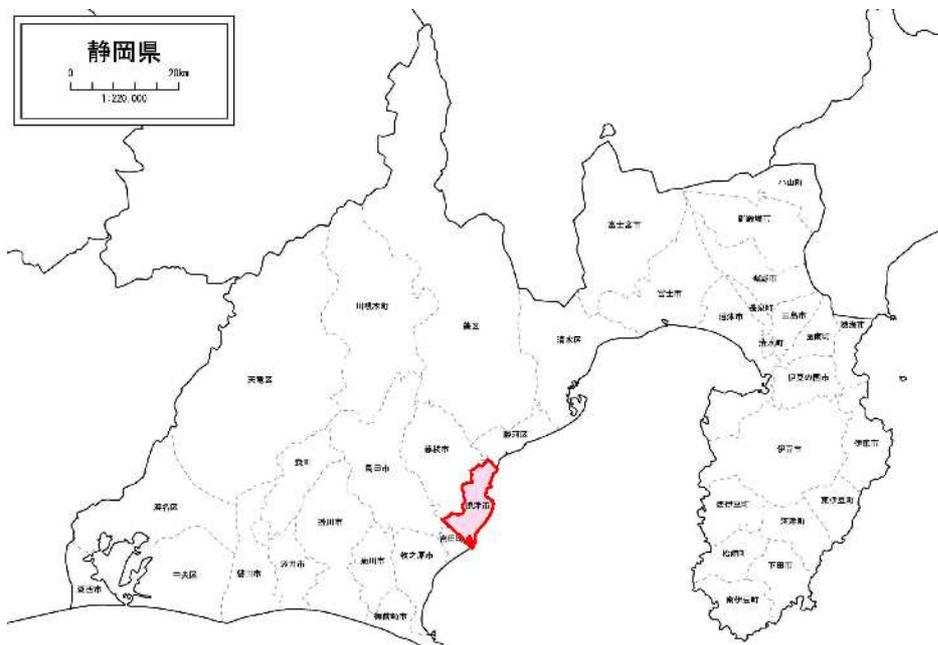
(1) 人口と世帯数

人口 135,612 人 (男 : 66,870 人、女 : 68,742 人)  
 世帯数 60,434 世帯

			構成比
年少人口	0～14 歳	15,243 人	11.24%
生産年齢人口	15～64 歳	79,165 人	58.38%
老年人口	65 歳以上	41,204 人	30.38%
計		135,612 人	100.00%

※令和 6 年 5 月 31 日現在

(2) 面積 70.30 km<sup>2</sup>



※焼津市、焼津市観光協会ホームページ等から抜粋

## 5 調査事項の概要及びまとめ

### (1) ふるさと納税の取組及びガバメントクラウドファンディングについて

富士吉田市は、ふるさと納税に関して専門の部署を置き、長い時間をかけて取組を強化している。ゆえに携わる職員の熱量が高く、事業展開がしっかりしていてそれが施策につながっている。

今回の視察を通じ、

- ① ふるさと納税を増やすという発想ではなく、まちづくりのきっかけ（まちの魅力発信）としての取組
- ② ポータルサイトの精査
- ③ リピーターにつながる「喜んでもらえるしくみ」づくり
- ④ 取組に対する体制づくり
- ⑤ 人気の動向や流行りの情報共有

などを主に重要視して取り組むことで、結果が伴っている先進事例を学んだ。

ふるさと納税では、根本的な発想の転換が必要かもしれない。

返礼品だけにこだわらず、まちの魅力を再度掘り起こし、挑戦していく姿勢が加東市でも必要ではないかと感じる良い視察となった。

### (2) 部活動の地域移行について

今回部活動の地域移行に関連して視察に伺ったわけであるが、それ以前に学校部活動のあり方、教員のかかわり方、地域のかかわり方、部活動のガイドラインなど現行の部活動の課題にしっかり向き合うべきであることを認識した。焼津市ではこれらの取り組みの結果として地域移行に進まれている訳であって、国の指示があって一朝一夕に動かれている訳ではないことが理解できた。また、休日について、外部指導員により部活動を維持していくという形ではなく、地域での活動に委ねていくというあり方について改めて認識することができた。

また、先進的に取り組まれてきた焼津市にあっても、団体スポーツはこれから取り組んでいかれるとのことであった。部活動改革が待ったなしの状況にあって、加東市の取組に遅れがないか注視していく必要があるように感じた。

## 6 各委員報告書

### 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会

委員長 藤 尾 潔

#### 【ふるさと納税の取組及びガバメントクラウドファンディングについて】

専門部署を設置した取り組みの強化。先般視察に行った都城の民間協議会とは違った形であるが、市サイドで企画立案、コントロールできている。SEO対策なども日々行政職員が行っている。加東市の業務委託形式において、どの程度行政が主体的に関わっているのか、丸投げになっていないか精査する必要がある。

ガバメントクラウドファンディングについては、返礼品も出されており、理念への目的「だけ」で成立しているものではないと見受けられたが、楽天サイトの厳しい審査にチャレンジして取り組まれていることに共感できた。審査が厳しい故、通過した後は競合相手のいない「ブルーオーシャン」になるため寄付額の増につながっていると感じる。上記の加東市の主体性をもった取り組みにも通じるところがあるが、積極的に取り組むべきである。

#### 【部活動の地域移行について】

①焼津市担当者よりの「休日の部活動を残していられるんですか？」という反問に多くの加東市としての課題が凝縮されているように思う。焼津市の方針は明確で、休日は部活動としてはやらないので地域の活動に参加してください、そのうえで地域での活動への支援をしていくということ。加東市の現在の基本方針は、部活動の枠組みは残しつつ、指導者等として地域人材を確保していきたいということだと思う。加東市教委で行った教員アンケート、体育団体へのアンケートから見ても、そのように部活動に合わせてみてくださる方が多いとは思えないし、無理が生じる部分について教員の負担のもと成り立たせるのは限界があると思う。根本的に地域展開を検討しなければ無理。

②部活動に関するガイドラインが空文化していないか、違反していないにしても枠内で限界まで無理をしていないか精査する必要がある。焼津市は平日2時間、休日3時間「以内」（加東市では「程度」）となっている。活動時間が2時間なら無理な朝練は生じないはずである。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会

副委員長 別府 みどり

### 【ふるさと納税の取組及びガバメントクラウドファンディングについて】

世界文化遺産の「富士山」を基に、その市の特色を最大限生かした魅力づくりのコンセプトがしっかりしている。寄付者が登録できるメルマガには8万人が登録しているとのことで、市の継続ファンになる誘導ができています。

そもそもの考え方が、「ふるさと納税を増やさなければならない」という発想ではなく、まちづくりのきっかけとして取り組まれていること、また、まずはやってみる（行政として決定している事業や既に予算化している事業でさらに大きく広がるようなもの）にスポットを当て、ふるさと納税を資源にやってみる。さらに、まちの課題をふるさと納税で解決する、という発想がある。各担当課の課題で、予算化できないなどの理由で取り組めなかった課題にふるさと納税で対応することで、市民の生活利便性やまちの観光課題の解消にも繋がっている。それらは、部を超えての協力体制があり、組織としての理解もあり、同じ方向性を向いて取り組んでいるとのこと。

また、具体的な手法として、検索順位を上げるための勉強会（1回／月）を行い、そこで世論や流行しているものを情報共有している。担当課全体の事業にかける思いが深いことが窺い知れたと思う。ひとつひとつのアクションがとても丁寧で、よく揉まれているとも感じた。例えば、返礼品の箱のデザインやカタログなども季節に合わせて変えておられたり、デザイン性の高いおしゃれなものを制作したり、寄付者対象の感謝ツアーを企画したりと、「届いて嬉しい・ふるさと納税してよかった」と思ってもらえる仕組みができています。ふるさと寄付推進課の職員さんは8名とのこと、加東市の体制とは大きく異なるが、発想も含め、加東市でもできればと思う部分が多くあった視察だった。

施設見学させていただいたジビエセンターDEAR DEER(親愛なる鹿)では、野生鳥害をマイナスの存在からプラスに変えていく発想で作られている。富士山周辺の深刻な野生鹿による食害対策の課題があり、被害防止策として管理捕獲を行い、加工センターの建設に至る。クラウドファンディングで約4万人に賛同を得て約6億4千万の支援をもとに建設されたとのこと。鳥害対策・富士山の環境保全・地域の活性化、集客施設としての観光の場・経済循環の場・教育の場としての複合的な役割を果たしている。お金の生み方と投資（使い道）、その後の効果をしっかり考えた構想が不可欠だと感じた。

### 【部活動の地域移行について】

まず、ひと通りの説明をお聞きして感じたことは「地域移行する」考え方

自体が加東市の進め方とは少し違っていると感じた。今ある部活動を少しづつ地域下に移していく（加東市）に対して、地域クラブ活動チームを新しく立ち上げ、開設してそちらへ移行していく（焼津市）という進め方である。そもそもの地域移行の捉え方が違うような印象を受け、部活動を地域に移行していくということはこういうことなのか、と初步に立ち返る思いだった。計画やガイドライン、申し合わせ事項は細かく作成されており、関わる人によって差が出るような心配はないように感じた。また、部活動ガイドラインは2年に一度改定され、見直されている。人材に関しては、部活動顧問になり得る部活動指導員と、部活動顧問の補助役の部活動外部指導者の配置について、関わる人を増やしていく発想で、部活動外部指導者が多く配置されている。学生や卒業生が関わる様子などを動画でも見せていただいた。実際の移行は、個人競技のものから地域クラブを立ち上げ、移行させていくことでうまく進めて来られている。生徒たちの選択肢が増える事や教員の超過勤務が減っていることはとても良いことで部活動の地域移行の成果だと思う。

今回の視察でとても良い地域移行の進め方を学ばせていただいたと思っている。加東市でもさらに部活動の在り方をしっかり議論し「子供たちにとっても 教職員にとっても 保護者にとっても 市民にとっても 魅力的な地域クラブ活動を @焼津市教育委員会」の考えで進めていけるようにしたい。

## 【そ の 他】

議会の紹介を兼ねて、やいづ議会だよりの配布があった。市民インタビューなど、紙面構成が加東市議会だよりと似ており、色遣いや言葉選びなども見やすい議会広報の参考になった。委員会視察と直接の関係はないが、色々な議会の取組を学んで帰ることができたと感じている。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 長谷川 幹雄

### 【ふるさと納税の取組及びガバメントクラウドファンディングについて】

非常に素晴らしい所での、行政視察をさせて頂いた。ふるさと納税によって建てられた建物であると言われ、立派な物であったし、最新技術を導入されて富士吉田市や世界遺産の富士山を画期的な手法で紹介されていたのには感動した。単にふるさと納税の取組だけでなく、納税者に喜んで納税してもらうガバメントクラウドファンディングを取り入れて成功されているところが素晴らしいし、長年の努力と担当者の意欲が説明を聞いていて感じた。ガバメントクラウドファンディングは取組むのはハードルが高く大変のようで、多くの自治体では取組んでいないが、市長をはじめふるさと寄附推進課のメンバーの市を活性化しようとする思いが強く感じたのは私だけではないと思う。数ある納税サイトの中から、最も審査の厳しい楽天サイトを選ばれて、結果を出されているのは10年の長きにわたり、知恵を絞って取組まれた担当者の成果だと思った。やっぱりどの自治体でも、ふるさと納税だけに限らず成功されているところは、担当者が変わらずに取組まれているところだと確信が持てたし、そのための各部の協力体制がこの結果を出している要因だと思う。

加東市も数多くの名所旧跡があるので、これを資源として活用しない手はないので是非活用して、活性化するために頑張るべきだと思った良い視察であった。

### 【部活動の地域移行について】

今回の視察で感じたのは、加東市は焼津市とは逆の方向とは言わないがこの取組に対して方向性がはっきりせず、相当遅れていると実感した。

焼津市は、県や国の施策の取組の前に早くから取組をされているが、各部とあり方検討委員会との連携がよくできている証だと実感した。

部活動の平日の時間が少ない中で、早くから地域クラブ活動にて取組まれ保護者からは、送迎が大変な面もあるが頑張っているとの内容であった。

部活動ガイドラインもしっかり作成されており、非常に分かりやすかった。

部活動より、地域クラブ活動に展開することで、教師の拘束時間も減っているとのことで成果が充分出ていると感じた。

今後、加東市も早急に現状をしっかり把握して、迅速な対応をするべきだと思った良い視察でした。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 松本美和子

### 【ふるさと納税の取組及びガバメントクラウドファンディングについて】

多種多様な返礼品やオール富士吉田で取り組む一体感、届くのが楽しみになるオリジナルデザイン。また地元高校生と連携したPRなど、地域おこし協力隊のつながりなど、得意分野での活躍にはめざましいものがあった。外国人観光客年間集客数ベスト10に入る新倉山浅間公園展望デッキの改修には、目標金額1億円のところ4億円以上のクラウドファンディングでのふるさと納税があった。外国人訪問客が多いのも羨ましいが、このようにたくさんの方の寄付が集まるしかけがすばらしく、何かひとつでも真似できることはないかと、考えながら視察をさせていただきました。

### 【部活動の地域移行について】

部活の地域移行の取り組みが大変進んでいることに驚きました。

- ①平成30年からすでに部活動改革に取り組んでおられること。
- ②総合体育大会の見直し→公式試合の連続で生徒の負担が大きいことなどから平成31年度の大会をもって廃止

部活動ガイドラインの策定をし①原則として平日は週3日②土日はどちらか1日を休養日③週休日と祝日の活動は年間最大60日④朝練は行わない

部活動顧問を助ける 外部指導者を34名、部活動顧問の代わりになり得る部活動指導員を3名委嘱している。

また、地域クラブ活動も多種多様にあり生徒が好きなクラブを選べる。もちろん強制ではないので、部活をしない自由も保証されている。部活動をしているのは約7割。部活動の地域移行が進んだことで、教職員の負担がかなり減り残業も激減したということに一番驚いたが、焼津市にできるのであれば、生徒や教職員の幸せのために、加東市も真似していくべきだと思いました。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 大久保忠義

### 【ふるさと納税の取組及びガバメントクラウドファンディングについて】

専門的な部署を設置して、専門担当責任者を長年に渡り任務されているところは、都城市と同じだと感じた。また、この本気で取り組みだしてからの順調な成果を出されている事からも正しい事がうかがえる。加東市においても一丁目一番地として真似をするべきところであろう感じた。

富士吉田市では、行政が中心となり進めておられるのが都城市とは異なり、市長がクラウドファンディングに積極的であるところも独自性があると感じた。加東市では難しいかもしれませんが、興味深い施策だと感じました。

オリジナルデザインの箱でお届けする事や、感謝ツアーなどの地元高校生の取り組みなどは、本市でも可能ではないかと感じました。

楽天などの審査が厳しくても繰り返しあきらめないで審査が通るまで出し続けるなどの取り組み方は凄いと感じますし、それだけの情熱を持って担当する部署や担当者が加東市も必要だと感じた。

### 【部活動の地域移行について】

焼津市では総合体育大会を行事の多い6月ではなくて、2月に行われている事に驚いた。個人競技の場合には、ここで敗退してしまったら、以降のモチベーションを保つのが難しく地区大会に進む部員との温度差が3年生で出来てしまうのではないかと思うと生徒の気持ちを心配した。

地域クラブに対して部活動ガイドラインを周知して、これを守る形での活動をお願いできている事が凄いと感じた。

教職員のための部活動地域移行ではなくて、市として、クラブ活動のリーフレットや、募集案内などを作成して、子どもたち・教職員・保護者・市民にとって魅力的な地域クラブの活動を支援しようと感じた。

加東市でも、地域クラブがたくさんあるが、受け入れをしても良いと快諾してもらえないのが現状と感じている。

アンケートだけではなく、面談などできちんとコミュニケーションが市と地域クラブがとれているからではないかと感じる。

加東市は、部活動指導員に休日移行をしてから、平日も移行していこうとの考え方だが、焼津市は、平日は教員で休日は地域クラブに移行し、平日はR7年以降に順次、地域クラブに移行するとの違いがある。部活動指導員は加東市の方が圧倒的に多い事は手法が違う事を物語っている。

加東市は、部活動指導員への移行を中心に進めているが、部活動指導員を中心とした地域クラブに移行する事が出来れば、最終の地域移行の形は同じになるのではないかと感じ、地域クラブの作り方なども参考になった。

## 行政視察報告書（所感）

総務文教常任委員会委員 中 村 龍 治

### 【ふるさと納税の取組及びガバメントクラウドファンディングについて】

富士吉田市の視察においてふるさと納税の現状を聞かせていただきクラウドファンディングの活用も含め職員の配置に8名が配属されているようで根本的に加東市との違いがある。富士山があり観光地としてクラウドファンディングでの強みあることは言うまでも無いが他にも返礼品等の封筒類や梱包材についても工夫され寄付して頂いた方々への気持ちを考えられていることを感じた。

また、障がい者施設・小中学生・地元事業者・地元高校生・地域おこし協力隊OBの方々との連携したPR活動についてもオール富士吉田で取り組む一体感ということで市民全体で取り組んでいるようすが伺えた。

結果、リピーターの増加につながっている事はしっかり検討された成果だと思ふ。加東市としては、取り組みに対する体制づくり（配置人数）が直近の課題だと個人的に考えます。

### 【部活動の地域移行について】

国の学校の働き方改革を踏まえた部活動改革により焼津市ではいち早く中学校部活動改革が進められているがまず感じたのが市内での地域クラブの多さでした。部活動を取り巻く現状や課題を踏まえ多くの調査聞き込みアンケート調査もふまえしっかり検討し取り組まれていると感じた。

取り組んでいかれる中「部活動が無くなると子供達が弱くなっている」という意見を頂いたと言われていたがそのことが私自身もこの課題でまず考えたことであった。部活動無くしていくという事はまず子ども達の意味をしっかりと確認しなければいけないということに共感した。

焼津市では過去3年中学校教員の残業が減少しているという結果があり取り組みがしっかり反映されている。

加東市では取り組み方が焼津市とは異なるが保護者の理解や、やはり子ども達の気持ちをしっかり取り組んで検討していかなければならない。